

ARAI NEWS

Arai (株)新井広武 〒330埼玉県大宮市東町2-12 ☎0486(41)3825~7

プロレーサーのヘルメット選び!?

先 日テレビのドキュメンタリーで相模の新弟子を取り上げた番組を見たんですが、その中で一人の新入のいった言葉が印象に残りました。“以前から横綱はすごいなと思ってたけど、実際この世界に入って本当のすごさがわかってくと、かすんで見えない遠くの世界の人になっちゃう”——とあったことです。実感です。

レースの世界でも同じこと。一般の人が見てもプロレーサーはすごいなあと思うでしょうが、本当にどのくらいすごいのかは自分自身が同じに走ろうと努力して初めてわかるものです。プロに至る道は実にきびしいのです。もっと早くならんとすれば必ず立ちふさがる壁を努力と根性で克服し、はい上がる。するとそこにはもっと高い壁が待っている。そんな壁をいくつもいくつも越えて、初めて到達できるのがプロの世界です。

うことです。一般人がつかわれて痛い所は、彼等も痛いんです。いいかえれば、普通の人がかぶって痛いようなヘルメットは彼等にも痛い。逆も真なりでプロレーサーがかぶって感じが良ければ、普通の人がかぶっても良い。このような事実もわかりました。だから市販のスポーツ走行用ヘルメットは、プロレーサーでもそのまま使えるよう細かな所まで気を配って、フィットのいい安全なものをつくっておけば間違いない、これが、レースとのかかわりから得た☺の答です。

そんな☺ですから、プロレーサーの方々にも原則として市販のRX-7やAstroをそのまま使っていただきます。違うのはカラーリングだけ。もちろん一部のレーサー

販のRX-7(57-58)に彼のカラーリングをほどこしたものです。頭の形状が一般的といえる方々までが、みんな特別仕様でないとお戦に使えないようなら、それは市販品の仕様の問題がある。☹はそう考えます。

これには反論もあるでしょう。一般的ライダーには少々ゆるめのほうが良いという考えがあるかも。でもこれは好き好きの問題でしょう。アメ車とヨーロッパ車のサス



Arai は世界チャンピオンを含め数多くのレーサーとつき合っているんで、彼等のすごさは肌で感じています。走りに関する彼等のとぎすまされた感性は、凡人に理解できないものであることも、よく知ってます。そんなプロだから、ヘルメットについても並のライダーには何でもないことでも気になる場合が、よくあります。ちょっとしたぐらつきでも使えないなんてことはざら。

ところがプロレーサーでもうひとつわかったのは、彼等も同じ人間だとい

方には特別仕様のヘルメットを作らせていただくこともあります。これは頭の形状が一般的な方とはかなり違う場合。しかしこの場合でも内装を頭の形に合わせて手直しするだけで、開発段階の製品でない限り帽体など市販品と違う規格のものを使って作るようなことはしません。中には風の抵抗が少なくなるよう、一まわりか二まわり小さな帽体を使ってくれないかという方もいらっしゃいますが、安全性を考慮市販と同じにさせていただいています。現に世界チャンピオンのフレディー・スペンサーが実戦で使用しているのは、輸出仕様のc/c RX-7(57-58)そのまま。平忠彦選手が83年の日本チャンピオンを取る過程で使ったヘルメットも、市

の違いみたいなもので、どちらをとるかは好みの問題です。そんな☹だから、初めての方には少々キツク感じられるかもしれませんが、しばらくかぶっている内にしっくりくるはず。というのも内装のクッション材は、頭の形状に合わせてへたってくるからです。もっとも痛くなる程きついのはだめです。その場合は1サイズ大きめのものを選んでください。

外国に多いんですが、外見は同じでも中味が市販品と全く違うプロレーサー専用の特製ヘルメットで、宣伝第一主義でレース活動をするメーカーもたくさんあります。でも☹にとっては、市販品をプロレーサーがそのまま使えるレベルに保つために必要なのがレース活動です。あたりまえのことです。そしてそんな当り前の積み重ねこそ大切だと☹は考えています。